



～設問間の相関関係について～

《相関関係とは》

年齢と収入のように、1つのデータの変化に伴って、もう1つのデータも変化するような関係を**相関関係**といい、1つのデータが増えるとき、もう1つのデータも増えるような関係を**正の相関関係**という。

《設問間の相関関係》

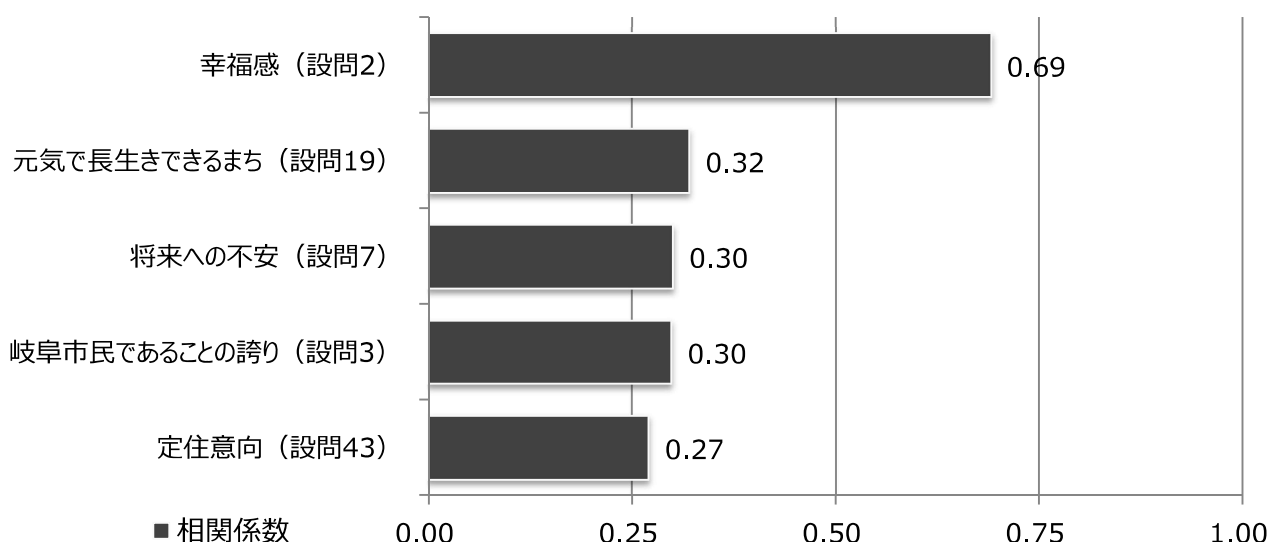
そこで、本調査の設問1から43のうち、ぎふし未来地図の10年後の3つの数値目標に掲げている、「生活満足度」、「幸福感」、「岐阜市民としての誇り」について、他の設問との相関関係を把握するため、**相関係数**（係数は-1から+1の間の値をとり、その**値が1に近いほど正の相関関係が強い**ことを示す。）を算出して、分析を試み、その結果を次ページ以降に示している。

（注意事項）

- 相関係数はいくつかの方法により算出することができるが、ここでは、通常用いられるピアソンの相関係数により算出している。
- 設問における選択肢は順位尺度となるが、その値の差が等しい間隔尺度として仮定した上で、相関係数を算出している。
※例えば、設問1の「生活満足度」については、選択肢を、1)満足している、2)どちらかといえば満足している、3)どちらともいえない、4)どちらかといえば満足していない、5)満足していない、に並び替え、その間隔が等しいと仮定し算出している。
- すべての相関係数は、1%水準で有意（偶然に相関関係がみられてしまう確率が1%未満であるということ、すなわち、99%以上の確率で偶然ではないということ。）なものを示している。

生活満足度との相関関係

「生活満足度」（設問1）と各設問（設問2～43）との相関係数を算出した結果、上位5項目は以下のとおりとなった。

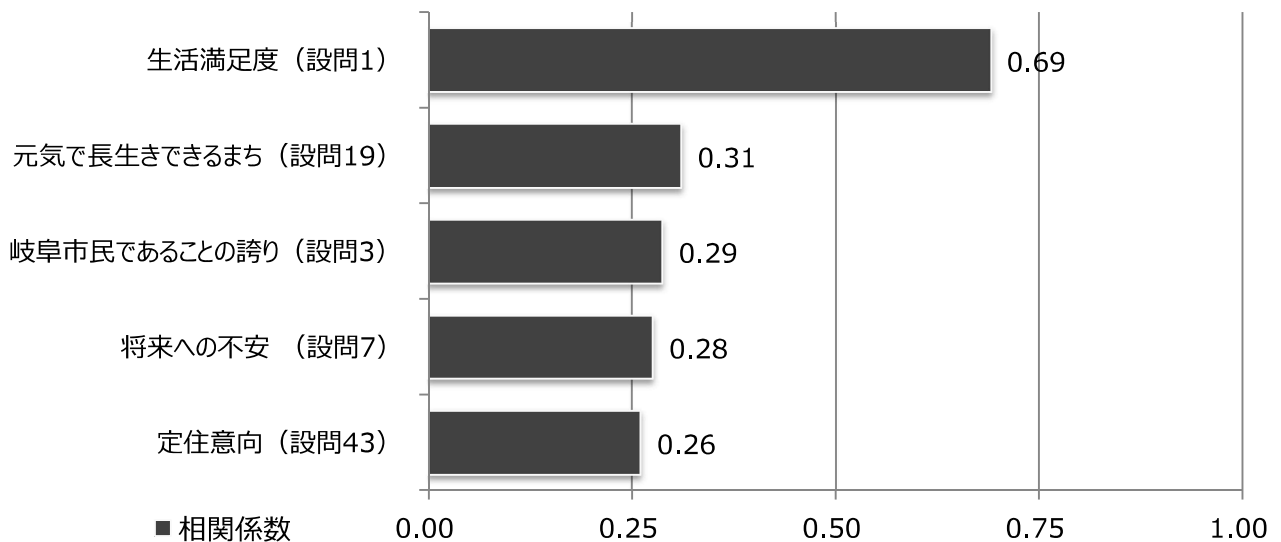


相関係数の一番高いものは、「幸福感」の0.69となり、次いで、「元気で長生きできるまち」の0.32、「将来への不安」と「岐阜市民であることの誇り」の0.30、「定住意向」の0.27となった。

このことは、健康で長生きできるまちを実感しながら将来への不安を解消し、岐阜市民であることの誇りを感じることで、生活満足度をより効果的に高められることを示唆しているものと考えられる。

幸福感との相関関係

「幸福感」（設問 2）と各設問（設問 1、3～43）との相関係数を算出した結果、上位 5 項目は以下のとおりとなった。

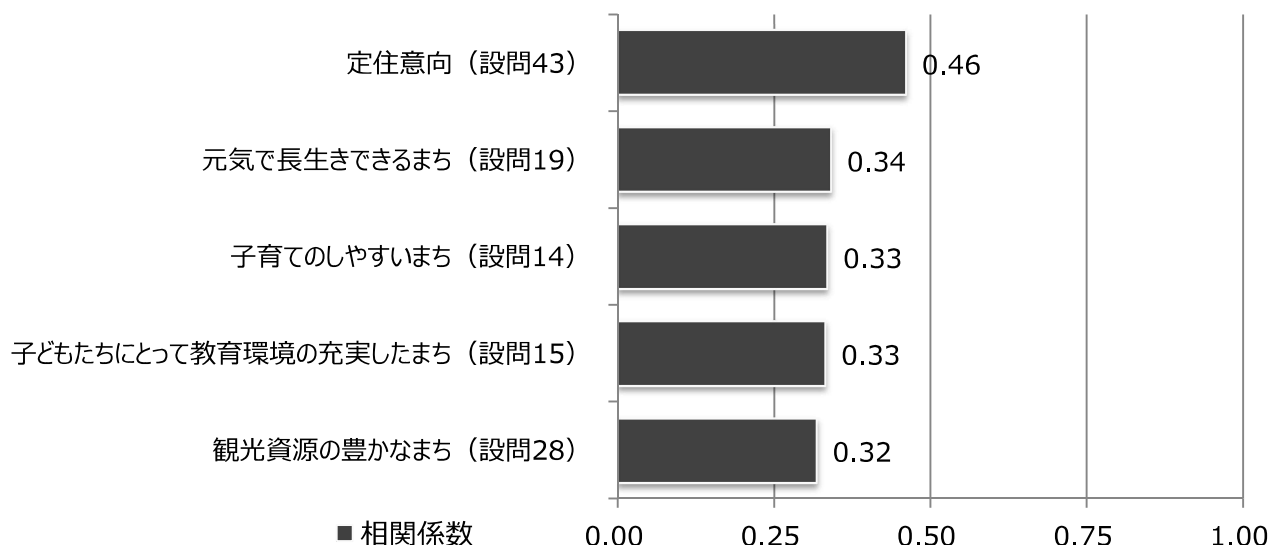


相関係数の一番高いものは、「生活満足度」の 0.69 となり、次いで、「元気で長生きできるまち」の 0.31、「岐阜市民であることの誇り」の 0.29、「将来への不安」の 0.28、「定住意向」の 0.26 などとなった。

このことは、生活満足度の場合と同様に、元気で長生きできるまちや岐阜市民としての誇りを実感するとともに、将来への不安を解消することで、幸福感をより効果的に高められることを示唆しているものと考えられる。

岐阜市民の誇りとの相関関係

「岐阜市民としての誇り」（設問 3）と各設問（設問 1～2、4～43）との相関係数を算出した結果、上位 5 項目は以下のとおりとなった。



相関係数の一番高いものは、「定住意向」の 0.46 となり、次いで、「元気で長生きできるまち」の 0.34、「子育てのしやすいまち」と「子どもたちにとって教育環境の充実したまち」の 0.33、「観光資源の豊かなまち」の 0.32 となった。

このことは、長く住み続けたい気持ちを持ちながら、元気で長生きできるまちを実感し、子育てや教育環境が充実することで、岐阜市民としての誇りをより効果的に高められることを示唆しているものと考えられる。